

# 協議「民話を通した 方言継承の可能性」

## 進 行

大野 眞男（岩手大学）

## パネリスト

櫛引 祐希子（大阪教育大学）

佐藤 千晶

（みなと気仙沼大使、フリーアナウンサー）

榎谷 伸夫（八戸・はちのへ童話会）

伊藤 恵子（名取・方言を語り残そう会）

## 【話題の候補】

- 自己紹介（特に方言に関わる取組）
- 共通語を使う場面と方言を使う場面とでの感覚的な違いについて
- 同じ場面における共通語使用と方言使用の感覚的な違いについて
- ドラマの中における方言の持つ意味、芝居の中における方言の持つ意味、語りの中における方言の持つ意味について
- 方言が分からないという反応を受けた経験やその反応への対し方について
- 方言に触れる場としてのドラマ、芝居、語りから、方言への関心を高めていくための方策、方言を学んでいくための方策について

## パネリストのプロフィール

### ◆佐藤千晶◆

宮城県気仙沼市出身。みなと気仙沼 大使/フリーアナウンサー。  
2008 年東日本放送( K H B )に入社。2010 年には地元である気仙沼の  
マグロ漁船の様子を追ったドキュメンタリー『遠洋にマグロを追って』の  
ナレーションで、第 9 回 ANN アナウンサー賞の「原稿のあるもの部門」  
最高賞を受賞。2011 年名古屋放送(メ〜テレ)に移籍。2014 年 4 月より  
フリーに。テレビ、ラジオ、ライフワークとして東北の復興イベントの MC など、  
幅広く活躍。  
気仙沼市がドラマの舞台となった2021年放送の NHK 連続テレビ小説  
「おかえりモネ」では、PR 番組のナレーション、宮城ことば指導、アナウンス指導  
を務めた。

### ◆榎谷伸夫◆

1948(昭和23)年9月20日 青森県八戸市生  
弘前大学教育学部卒  
八戸聖ウルスラ学院小学校・高等学校に43年勤務  
現職 八戸市公民館館長兼企画事業アドバイザー  
令和3年度青森県文化賞受賞  
八戸童話会会長・演劇集団ごめ企画代表・鮫神楽保存会会長・  
青森県語り部ネットワーク会長

主な作品 方言を使っの、この地域を題材にした作品が主  
一人芝居『海村(かいそん)～老漁師吉田正吉が語る鮫村異聞～』  
82 年初演 県内外で約 50 ステージ上演  
3 年前、八戸での最終と銘打って公演実施。  
他地域で再演要請の動きあり。  
平成2年 戯曲集『海村』を門土社より出版

『我が内なるラピュータ～前原寅吉の夢』  
『弓人は翔んだ～アメリカに夢を馳せた男』  
安藤昌益一人芝居『高橋大和守出奔す～出立つ日～  
昌益 八戸を出て比内二井田へ向かう』  
『約定の城～九戸城異聞』  
『海を越えたかった男～私説三峰館寛兆～』  
『あかつきぼし～太平洋戦争中 駆け足で生きた  
八戸の青年歌人：佐々木章村～』 その他  
2017 年より八戸学院大学看護学科・人間健康学科・地域経営学科1年生  
全員 250 名に、必修『地域文化論』の講義9月～1月  
(八戸の歴史、文化、民族芸能・祭り、方言、人物 etc)を実施中

#### 南部弁関係

南部昔コ語り部養成講座(10 年目)「南部昔コ集」I & II 出版  
南部弁会話集CD製作発売  
八戸市内外の小中学校で「南部弁って面白い・南部昔コ語り」出前講座  
11 年間実施中  
地域コミュニティーラジオ BeFM で「おもしろ南部弁講座」23 年目 昨年 11 月  
5900 回突破  
八戸市鮫町の現在・過去・未来を南部弁を交え物語風に構成した『鮫 残照』  
発刊

### ◆伊藤恵子◆

1958(昭和33)年 宮城県名取市閑上生  
東日本大震災まで移住経験なし  
「方言は無形の先祖からの遺産」として後世に語り残すための活動を行う中、  
「名取方言かるた」、大震災 5.7.5「負けねっちゃ」、詩集大震災を乗り越えて  
「生じるっちゃ」、方言むかしばなし「名取ざっと昔」(一)(二)の編集に携わる  
歯科衛生士として地域の人々の健康を支えている。